

南三社と

Silk Country
Gunma 21

みなみさんしゃ

とみおかせいしじょう

富岡製糸場

今井 幹夫



群馬の製糸業史に新しい光

明治初め、世界最先端、最大規模の器械製糸工場である官営富岡製糸場が開業した。ところが地元群馬で器械製糸は広まらず、逆に手作業による在来の座繰り製糸が盛んになった。この推進役が養蚕農家を組合員とする組合製糸・南三社(碓氷社、甘楽社、下仁田社)だった一。絹の国・群馬ならではの製糸の歴史を豊富な資料で掘り起こす。

南三社と

Silk Country
No. 21

みなみさんしゃ

とみおかせいしじょう

富岡製糸場

今井 幹夫



シルクカントリー双書



南三社と富岡製糸場



碓氷社の商標 (安中市教育委員会提供)

彼は立場上、やむを得ず社長の座に就いたことを述懐しているが、客観的に見た時、社の経営に最も精通しているのは鎌太郎であるし、彼の経済思想が田口卯吉の主張する自由経済思想であったことを考えると、まさに当を得た人事であったと思われる。

もう一つ特徴的なことがある。それは一番初めの碓氷座繰精糸社、これを引き継いだ碓氷精糸社から明らかに脱皮を意図しているのが碓氷社という社名である。なぜならば前二社は座繰り製糸を主体とし、碓氷社は現況ではそれを継承しながら器械製糸も意図していると思われるからである。

後に彼が器械製糸の必要性を語っているが、この発想は碓氷社の命名の時点で生まれていたのでないかと指摘しておきたい。

社長に就任した翌年、彼は全社員に向けて「碓氷社社員に告ぐ」という声明を発している。その中で特に強調している点を挙げる

■シルクカントリー双書〈全10冊〉

- ①『繭の記憶』
- ②『絹人往来』
- ③『絹先人考』
- ④『絹遺産紀行』
- ⑤『私の中のシルクカントリー・上』
- ⑥『私の中のシルクカントリー・下』
- ⑦『南三社と富岡製糸場』
- ⑧『富岡製糸場事典』/2010年度刊行予定
- ⑨『織物ぐんま』/2011年度刊行予定
- ⑩『絹のことば』/2011年度刊行予定

※書名・刊行予定等変更になる場合があります。



9784863520455



1920321015004

ISBN978-4-86352-045-5

C0321 ¥1500E

定価 1,575円

(本体1,500+税)

■シルクカントリー双書(全10冊)

●『繭の記憶』

●『絹人往来』

●『絹先人考』

●『絹遺産紀行』

●『私の中のシルクカントリー・上』

●『私の中のシルクカントリー・下』

●『南三社と富岡製糸場』

●『富岡製糸場辞典』(2冊)を収録

●『絹のことは』(2冊)を収録

●『織物ぐんま』(2冊)を収録

※表紙・刊行予定等要項に異なる場合があります。